

温州ミカンの品質に関する研究

第13報 開花期と温州ミカンの品質について

栗山隆明・吉田 守

(福岡県園芸試験場)

KURIYAMA, T, and YOSHIDA, M.

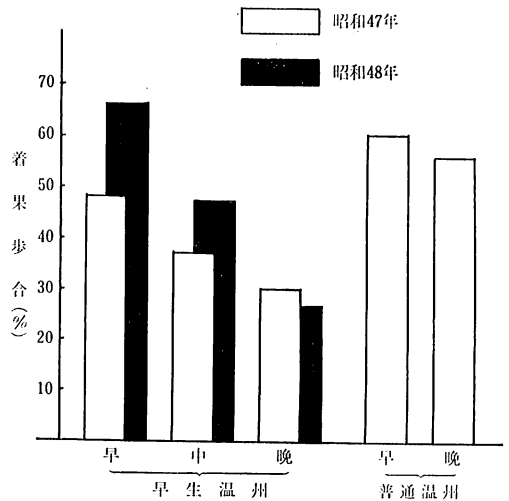
Studies on the quality of Satsuma mandarin

(13) Effect of flowering time on the quality of fruit

温州ミカンの品質に影響する因子はきわめて多いが、本報では均質生産技術確立の資とするために、開花期の早晩と果実の品質との関係を調査したので、その結果を報告する。

試験方法

調査樹は早生温州が宮川(17年生)、普通温州が林(17



第1図 開花期の早晩と着果歩合

第1表 開花期の早晩と果実の品質

(1) 早生温州

(48.10.19)

開花期	果重	果皮歩合	糖度計示度	甘味比	果汁100cc中のg量			着色度
					クエン酸	全糖	還元糖	
早	107.7g	19.7%	9.1	9.9	0.916	7.67	3.14	6.2
中	100.6	17.4	8.9	8.0	1.112	7.29	3.08	5.3
晩	93.1	18.4	8.7	7.1	1.227	6.87	2.73	3.5
有意性	—	—	NS	*	*	NS	*	—

(2) 普通温州

(47.11.29)

開花期	花の種類	果重	果皮歩合	糖度計示度	甘味比	果汁100cc中のg量		着色度
						クエン酸	全糖	
早	有葉果	82.1g	27.9%	9.1	7.5	1.208	6.29	7.3
	直花果	87.8	26.1	8.7	6.7	1.302	5.20	
晩	有葉果	88.0	28.2	9.0	7.7	1.172	6.50	6.2
	直花果	77.0	25.5	8.8	6.8	1.295	5.53	

年生)を用いた。

分析は、糖がベルトラン改良法、クエン酸が苛性ソーダ滴定法によった。

試験結果および考察

1. 開花期別の着果率は、早期開花区が最も高く、ついで中期区で、晩期区が最も低く、開花期の遅い花ほど着果率が低くなることが認められた。また、開花期と果実の着色との関係は、開花期の早い果実の着色が早く、開花期がおくれるにつれて着色もおくれた。

2. 果皮歩合については、開花期による一定の傾向は

見られなかったが、いずれの開花期においても、直花果の方が果皮歩合が低かった。

3. 果汁の糖度計示度は、早生、普通ともに開花期がおくれるほど低く、直花果と有葉果では直花果の方が低い傾向が認められた。全糖についても糖度計示度と同様の傾向が認められた。果汁中のクエン酸は、全糖とは逆に開花期がおそいものほど高く、直花果は有葉果よりも高い傾向が認められた。

4. 以上のことから、同一樹冠内のおそ咲き花の果実はかなり品質的に劣るので、できるだけ摘果期に摘果することが、均質生産の効果を高めるものと考えられる。